

# ミノルタ千代光会 会報 No.148



「チロルの山々」(オーストリア)2016年描  
作者 馬淵 武さん (第4頁に追悼の辞)

明けまして

おめでと〜うございます

会長 大場 勝

新しい年、2021年を迎えてから既に一ヶ月経ち旧暦の正月が近くなりました。会員の皆様が顔を合わせて懇談する機会が出来なかったこの1年間、皆様におかれましては未体験のコロナ禍の影響を受け、不自由な生活を余儀なくされたこととお察しいたします。

昨年3月の前年度の総会・親睦会はコロナ禍の影響で感染リスクの高い高齢者が集まる機会を避けることから残念ながら中止とし、2020年度に入って各地区での春・秋の親睦行事も同じく開催することが出来ませんで

## 目次: No. 148

|           |     |
|-----------|-----|
| 会長挨拶      | 1   |
| 会員便り      | 1-2 |
| 理事会便り     | 2   |
| 事務局からお知らせ | 2-3 |
| 理事エッセイ    | 3-4 |
| 追悼の辞      | 4   |
| 近況報告      | 5-6 |

した。そんな中10月の物故者慰霊祭は会社代表と役員に限定した参加者により高山山にて無事執り行ないました。そして本年3月の本年度総会・懇親会も再三のコロナ感染拡大傾向がおさまらず、各地区とも会員が一堂に会する開催は行わないことを決定させていただきました。

会の運営は幸いにも役員の方々どうし電子メールを活用して連絡し合い、理事等を滞りなく行なってきました。そしてインターネットを活用しパソコンの画面上でマスク無しの顔で話し合うネット会議もようやく試行の運びとなりました。このシステムの利用はインターネットの活用者に限られますが今後は親睦の手段としても使ってもらおうよう図って行きます。

新年度における活動はコロナ禍の状況に左右されて依然として不透明な部分があり、会員が集まる行事開催は状況に応じて対応して参りますが、会員への情報提供、会員間のコミュニケーションに役立つような会報やホームページの記事の更なる充実を図って行きます。

1976年に設立されたミノルタ千代光会は本年45周年を迎えます。会員の高齢化、会員数の減少傾向を踏まえた今後の会のあり方・活動内容についてこの時

期に今一度検討しまとめたいと考えています。

コロナ禍の今、ハリネズミの話を思い出しました。一匹でいると寂しいし、集団でいると他のハリネズミの針がチクチク痛くて困るというお話です。今、家族を含め他人に対して適切な距離や時間の確保は難しい状況ですが、自分だけではないとの認識でコロナ収束に対応して参りましょう。今後とも規制や自粛が要請される日々が続きますが、新年度中にはワクチンの効力が発揮されて笑顔の交換ができる平穏な日常が戻ることを願っております。

本年の会員皆様の健康を願うとともに会活動への皆様のいっそうのご協力をお願い申し上げます。

## 会員便り

「ブログ作成は老化防止の一助と見做したり」

関東地区会員 原田 道夫さん

2004年9月、チョット早めの退職をしてから、趣味をカテゴリーとしたHP作成を思い立った。ブログを始めたのは、その一角に「三日坊主の日記」を掲載したのが始まりである。その後、現在の「スローライフ」が「那須高原」にレイアウト、タイトルを変更して12年目になる。

ブログ以外の各SNS (Facebook、Instagram、Twitter等) のアカウントを持ちながらも、殆ど記事の掲載、コメントをせず読み流している。ブログと異なり軽い



「北極圏トロムソの夕陽」北極圏トロムソは、北欧のパリとして名をはせ、街の頭上にオーロラを見られることで知られています。トロムソのビューポイントから夕陽を楽しみこの後オーロラが輝きます。(撮影 原田道夫さん)

タッチの記事のやり取りが自分の肌合わないのだ。文章記事を主体としたブログを利用している拘りはそこにある。

ブログを始めた理由は二つ。一つは言葉を忘れないようにする、もう一つは知人、友人への近況報告だ。3日も記事を空けると「おい、乾涸びてないか」と状況確認が飛び込んでくる。これが最も有意義だ。

ブログの内容をカテゴリー別にするとう項目になる。日常の他愛もない記事から、那須でスローライフを始めようとする人への情報提供、そして写真愛好家への那須の魅力の発信などだ。昨年末で2405記事数になった。「ブログらしくなるかな」で始めたが、良く続いていると我ながら驚いている。最近の1日の平均アクセス数は800件、訪問者は200名とコメントに維持している。千代光会HPでのご案内も効果を発揮していると推察する。

記事内容では気を付けていることもある。他人を引きあいに出す時には個人情報に触れない

ように、写真掲載にはカメラメーカーに籍を置いた一人として、出来上がりに神経を使う。プリントと違って、モニターの大きさ、明るさ、色合いの調整など千差万別なので、全ての人に「綺麗」と言ってもらえるのは難しいが、ポイントの一つだ。

紙面構成での拘りが有る。無料で開放されているSNSのサイトでは、否が応にもバナー広告がレイアウトを占める。このところが否でレンタルサーバーを借りて、バナー広告の無い紙面を構成している。しかし、最近のブログは肩身が狭い。このレンタルサーバーも来春から新規の利用申し込みは不可になる。又、大手のプロバイダでもその傾向にある。時代の流れとは言え寂しい。他のSNSの「つぶやきが主体」への流れが加速するのだろう。

情報化社会と云われる昨今、ネット環境に多少なりとも親近感を持たないと時代に取り残されかねない。加齢と共に失われてゆく脳力、日々の情報を配信すると、遠方の知人友人とのコミュニケーションが図れる。脳の活性化にもつながり元気なシニア生活の一助になると確信しているのだが。

「スローライフ in 那須高原」  
筆者 那須トラダムス

## 理事会だより

### 11.12月理事会

◇来年度活動方針案について  
(メールにて意見集約)

### 2021年1月理事会

◇来年度活動方針について  
◇来年度予算案について  
◇役員改選について  
◇関西地区  
2020年度関西地区総会の書面開催について  
(Zoom会議にて実施)

## 事務局からお知らせ

### 【会員状況】

1月19日現在  
関西地区〔520名〕  
中部地区〔218名〕  
関東地区〔67名〕  
合計〔805名〕

### 新入会員のお知らせ

今回は該当の方無し

### 同封書類があります

《関西地区・中部地区会員皆様》  
総会中止等のご案内

## 句集『七十二句』の紹介

関西地区会員 城野 宣臣さん

城野氏は、在職中より俳句を始め、辻桃子主宰の俳句結社「童子」に入会されて本格的に俳句作りを楽しんでおられます。

入会后、早々に「新童賞」を受賞される等その才能をフルに発揮し、入会6年で「童子」の同人となりました。

定年後も引き続き結社で俳句作りを楽しみながら、その傍ら家庭菜園なども始められています。

丸谷才一氏が70歳で上梓された句集『七十句』を読み、「これもしゃれているな」と思われ、15年以上の句歴の中より、70歳は過ぎ今年3月で72歳となる自分に合わせ七十二句を選びすぐり、今回の句集『七十二句』をまとめ上梓されました。

上梓を終えられた心境として「あらためて俳句をやっているとよかったと痛感した。」と述べられています。

俳号の「三四郎」は、ご自身もよく覚えておられない様ですが、学生時代に詩や短文を同人誌に出していた時に使ったペンネームで、漱石の小説に由来すると聞いています。

一句御紹介  
・春の句  
・夏の句  
・秋の句  
・冬の句

残雪やがれき燃やしてみな無言  
蜘蛛の囀に山雨至れり奥吉野  
空海の山と暮らして柿すだれ  
警備兵ひとかたまりに北京凍



おめでとうございます

田=中部地区会員  
 圃=関東地区会員  
 無印=関西地区会員

<古稀>

11月 清水 滋 杉山 高司田 平田 澄昭田  
 12月 松本 庸一 永井 隆志田 西出 貞元  
 1月 深井 勇田 溝畑 富美子

<喜寿>

12月 市川 恵一田 島津 博義 和田 幹司  
 葛城 衛 河野 盾臣田  
 1月 宮本 隆良 長田 三男 湯浅 良男  
 朝倉 實田  
 2月 中尾 睦宏田

<傘寿>

11月 佐藤 紀年  
 12月 亀田 寛美 田中 晋田 加納 隆司  
 1月 中村 光良田 藤坂 和弘 小川 邦夫圃  
 作田 正昭 柿崎 孝久 小林 武國圃

<米寿>

11月 金岡 章夫 西島 司  
 12月 今西 宏 川上 勉田 森 重喜  
 仁田 三郎  
 1月 沖嶋 嘉郎

<卒寿>

12月 坂倉 至  
 1月 亀甲 茂  
 2月 小林 正美

お悔やみ申し上げます

山本 正信 2020年 6月 4日  
 馬淵 武 2020年 9月10日  
 妙見 政和 2020年11月 6日

理事エッセイ

『コロナ禍の中で籠りながら行っていること』をご紹介します。

「私の巣ごもりの暇つぶしは

フェースブック！」

関西地区 足立 秀一さん

外出自粛要請に従って巣ごもりするのが自分のためと云う様なコロナの感染状況ですね。しかし、ずうと家に籠っていると運動不足で我々高齢者は心身機能の低下を招くことになり好ましくないと聞いています。健康維持のため、外出自粛に逆らわない程度に以前より行っている毎日の散歩と週2回の筋トレは続けます。外出時は、当然マスクの着用などの感染防止対策は万全にとっています。

このコロナ禍で新たにやり始めた事と云えばM氏に勧められたフェースブックです。毎日の散歩で撮った写真などにコメントを付けて投稿し、それに対し今は会いたくても会えない、知人友人からの返信を貰う、知人友人の投稿を見るなど、フェースブックを通じて交流が出来ていますが、文章のやりとりだけと云うのはもどかしい限りですね。早くコロナが収束し、自由に会って話せる様な状況になって欲しいものです！フェースブックを2次的に活用して、フェースブックに日々投稿した写真をまとめて千代光会員のHPに投稿したりもしています。

「我が家の老々介護（老人と老犬）」

関西地区 池内 康さん

我が家では、17歳半になるジャックラッセルテリアのジョージと生活を共にしている。17年前、東京、単身赴任したことをきっかけに、家の用心と息子の情操教育に役立つと思いついて飼いはじめた。

小型犬ではあるが猟犬の血が騒ぐのか、若い頃は、庭に放つと動くものには即反応し、鳥が飛来すれば追いかけてトカゲを見つけたら尻込みしながらならぬ、カルシウムの補充ではないが低空飛行の蟬をジャンプでパクリむしやむしや、食事はしっかり与えているのだが・・・。

犬にとつての我が家のエラルキーは、息子が最上位のご主人様、食事の手配と身の回りの世話係の妻はその次、そして私は最下層の遊び相手。今はその息子も独立して家を離れ、私も多とご主人代理兼遊び相手に昇格です。犬も歳を重ね後期高齢となり、月に一度の病院通いでガリリ制限の食事指導を受け、大量の薬を処方される姿は私と同じ。コロナ禍で混沌とした時代にあっても家族の良き一員として元気に長寿を続けてもらいたく、老々介護でこの老犬を見守っていきたくものである。

のんびりクロスバイクサイクリング

中部地区 今村 俊二さん

我が家の駐車スペースの片隅にジャイアントクロスバイクが20年来置かれている。

まだ、50歳半頃の頃、メタボ解消のために購入したのだが、これまで、ちよつとした街乗りは別として、日帰りツーリング（浜名湖、猪鼻湖一周数回、伊良湖岬、西浦温泉等）と輪行（鎌

倉 京都 高山)とを合わせ 10 回程出かけている。

風を切て走るのは爽快でもあり、また風の抵抗を受けて余り進まず苦勞することも多い。色久プリングやトラブルも数々あったが、何とかのんびりサイクリングを楽しんでいる。

自転車旅行記「ドイツロマンティック街道 自転車ふたり旅(神谷すみ子著)」や『還島ぐるりと台湾一周の旅(一青妙著)』等を読み、ドイツや台湾での自転車の旅に淡い夢を抱いた時期もあったが、購入して7、8年した頃に、現在自転車の師と仰ぐ自転車整備資格を持っている同年代のK氏と出会い、その彼から日帰りツアーや輪行に誘ってもらい一緒に出かけている。

数年前には自前イクでなくレンタサイクルで「しまなみ海道/尾道〜今治」泊旅行に彼とその友人の3人で出かけ、風光明媚な瀬戸内をサイクリングし楽しんで様子が鮮明に蘇ってくる。

昨年腰の手術をし、そのためのリハビリも兼ねてこの先も無理せずのんびりと自転車乗りを楽しみたいと思っている。

## 「きんこ」とは何だろう

関西地区 三原 淑子さん

「コロナと言われる感染力の強い危険なウイルスが出現し、日常生活が激変してしまつた1年

「不要不急の外出は控えるようにと言われて、改めて自分の行動を見直ししました。

さてこの頃の私の生活では、「それ以外

のことはほとんどしていない」ということに考え至り、少々愕然としてしまったのですが、気楽な日々を送らせていただいているわけでありがたいことだと思います。

巣ごもり生活になりましたが、もともと家で一人過ごすことに何ら問題はなく読書、手仕事、整理を楽しみ、苦手な料理もがんばって作るのが楽しくなってきました。しかし自由に何でもできる中の行動ではないことに疎ましさを感じるようになってきて、ヤル気も下降気味。終息の目途はたえず、まだまだ続きそうな状況下、こんな気分ではいけない、気持の切り替えが必要かと思うようになってきました。

## 追悼の辞

馬淵 武 さん

9月20日死去

馬淵武さんを偲び哀悼の辞を捧げます。

馬淵さんは、ここ1か月ぐらい肺機能が低下して入院された後、家に戻られていて、夜中にベッドの横に座られているのに奥様が気づかれず、少し背中をさすられていると眠るように、穏やかな表情で奥様に看取られて息を引き取られたそうです。馬淵さんは昭和36年に伊丹工場の「光学ガラス研究室」に配属され、光学ガラスの組成開発に携われ、光学ガラス量産化の基盤を構築

され、カメラのレンズになくはならないガラスの開発・生産に尽力されて、伊丹工場の発展と共に、カメラの発展に大いに貢献されました。

馬淵さんは真つすぐで負けず嫌いな性格で、何事にも自分の考えをお持ちで、即断即決されていた印象が強く残っています。

特に、阪神大震災の際には工場長として直ぐに対策本部を立ち上げられ、状況把握をもとに的確な対応策を実行されて、生産ラインの早期復旧を成し遂げられ、会社の事業に大きな影響を残すことなく再生されました。功績は本当に偉大です。

退職された後は趣味で一緒に遊んで頂く機会が多く親交を深めました。

馬淵さんはNHKの絵画教室で絵を描くことを楽しまれていましたが、描かれた絵にも几帳面な性格が現れていて写真のように正確に描かれていました。

奥様と旅行に行かれた際の風景の切り取りも素晴らしかったもので、そのシーンの絵は写真を見ているような印象が今も残っています。

もうご一緒できないかと思うと寂しい限りです。

本当にいつも暖かくお付き合い頂き有難うございました。心よりご冥福をお祈りしています。

(井上 雅彦)

妙見 政和さん

11月6日死去

妙見さんは昭和21年堺工場に入社、堺工場・狭山工場を通じレンズ生産に従事してきました。

私が堺工場に移ってきた当時、レンズ部門には卓越したレンズ研磨の技能者が何人かおられた中でも妙見さんは異色の存在でした。どこへでも研磨屑だらけの作業着、サンダル履きで押し通し、独特の風格がありました。初めて妙見さんとお会いしたのは、私が一眼レフのボディ組立からレンズへ移った時です。妙見さんに職場の案内を頼むと、「俺は忙しい。職場を見なければ勝手に回れ」と独特の和歌山弁で言われ驚いたのを覚えています。

それ以来何十年コンビとしてお世話になりました。あらゆる光学系のレンズ研磨を手掛け、一貫してレンズ生産を牽引してきました。趣味の魚釣りは玄人はだし、舟も購入して本格的でした。時には大物を貰いました。

定年時狭山工場で妙見さんを見送りました。それから幾星霜お会いすることなく訃報を聞きました。正に天寿を全うされたと謹んで冥福をお祈りします。

(木村 淳)

